

女子団体、個人戦に出場する
帯大谷女子の精鋭たち



高校総体で集大成を

帯大谷勢 (男女) 勝利へ気合

団体女子、濱下、江口、瀬藤、廣瀬

高校スポーツの頂点の大会・全国高校総体(インターハイ)「四国総体」の競技が23日にスタート、四国4県(徳島、香川、愛媛、高知)と和歌山県(ヨット競技のみ)で8月23日まで熱戦が繰り広げられる。十勝勢のトップを切って24日からバドミントン(会場は徳島市など)に帯大谷高の男女選手が挑む。このほか十勝勢が出場する主な競技は、バスケットボールが27日から香川県高松市などで、テニスが28日から高知県高知市で、ハンドボールが30日から愛媛県松山市な



あすからバドミントン



どで、レスリングが8月1日から高知市で、陸上競技が同3日から徳島県鳴門市で行われ、管内各校や出身の高校生アスリートたちがトップの座を目指す。

男子ダブルスに出場する帯大谷の瀬藤智史(左)・廣瀬大城組

バドミントンは帯大谷が女子団体戦に9年ぶりに出場するほか同個人戦シングルスに濱下亜美(3年)、同個人戦ダブルスに濱下・江口碧(2年)組、男子個人戦ダブルスに瀬藤智史・廣瀬大城組(3年)を送り込む。

初戦は勝つ

雪辱果たす

北海道大会を制した女子団体戦は、3月の全国選抜大会(2回戦)で0-3と敗れた福岡常葉(福岡)と、再び初戦で戦う。因縁の相手に対し菅原詩月主将(3年)は「選抜では競うことはできたが力を出し切れなかった。相手はめっちゃめっちゃ強いというわけではない。互いに成長していると思うが、3年生にとって最後の大会。気持ちで負けないようにしたい」と雪辱を誓う。監督就任以来、初めてチームをインターハイに率いる入江優喜・女子監督は「9年ぶりの出場から、また新たな伝統をつくりたい。その礎となる大会にした

1球に集中

男子は北大大会で準優勝した瀬藤・廣瀬組が唯一出場。8強以上を目標にする。瀬藤は「格上の相手にいつも決まる球が決まらないのは当たり前だが、やることは全道大会と同じ。1球に集中したい」。廣瀬も「自分たちから攻めないと勝てない。押し込まれても自分たちの形をつくってフィニッシュしたい。戦うのが楽しみ」と話す。

(岡部彰広)